伊藤忠商事のCSRとは

伊藤忠商事のCSRとは、初代伊藤忠兵衛が事業の基盤とし、社員一人ひとりが受け継いできた「三方よし」の精神そのものです。伊藤忠商事が150年にわたり成長・発展することができたのは、この「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」の精神を創業者の時代から実践してきたからにほかなりません。次の150年に向けて、「三方よし」に根ざしたCSRをこれからも実践していきます。

伊藤忠商事のCSRに関する基本的な考え方

現代社会には、地球温暖化をはじめとする環境問題や社会的な問題等、さまざまな課題が存在しています。これらは、公共セクター、市民セクター、企業セクターといった世界のすべての人々が協力して解決を図らなければならない重大な課題です。中でも、経済活動の主体である企業セクターが担う責任は極めて大きく、企業活動においてこれらの問題の解決に向け取組んでいかなければ、良き企業市民として社会に認めてもらうことはできません。

伊藤忠商事は、世界の数多くの拠点において多角的な事

業を展開しています。私たちは、当社の企業活動が社会に与える影響の大きさを認識し、社会からのさまざまな要請をしっかりと把握し、それに応える努力を怠らないことが、当社の「三方よし」に根ざしたCSRであると認識しています。それを実践することで、良き企業市民として認められ、持続可能な企業活動を継続していくことにより、持続可能な社会の実現にも貢献すると考えています。当社は、次の150年も、社会から信頼され、必要とされ続ける企業を目指していきます。

伊藤忠商事はステークホルダーとの対話によってCSRを進めます

伊藤忠商事は、その幅広い企業活動一つひとつにおいて「伊藤忠だけの理屈」や「独りよがりの判断」に陥らないよう常に留意しています。このためにも、「世間の判断が正しい判断」との考え方に基づき、ステークホルダーとの対話によるCSRを進めていきます。

伊藤忠グループの主要なステークホルダー 地球環境 国際社会 従業員は総合商社の事業活動において重要な財産 株主·投資家の皆様には、伊藤忠グループが良き企 です。多様な従業員が「働きがい」「やる気・やりが 業市民として進むべき方向を決定いただくために、 株主·投資家 従業員 い」を持って能力を存分に発揮できる職場環境の 過不足のない情報を適宜提供するように努めます。 整備と人事制度の充実に取組んでいきます。 伊藤忠グループは世界各地でさまざまな事業 伊藤忠グループが取扱う商品・サービスの社 活動を行っています。各拠点において良き企 伊藤忠 会・環境影響を考えるときに、サプライヤーと サプライヤ・ 地域社会 業市民として地域社会との共生を図るため、コ の協働が必要不可欠です。サプライヤーとと グループ ミュニケーションを大切にし、地域の発展に貢 もに社会·環境への配慮に努めます。 献します。 商品やサービスの最終的な利用者は世界中の生活 顧客の要望を把握し、常に高品質で安全・安心な商 品·サービスを提供することや、商品に関する透明 顧客 消費者 者(消費者)です。常に消費者の満足を考え、安全・ 度の高い情報提供に努めます。 安心な商品・サービスを提供していくことで、消費 更に、社会に貢献する商品やビジネスの展開、共同 者の生活をより豊かにすることに努めます。 開発などでの連携を深めることにより、顧客の発展 とともに、持続可能な社会の構築に貢献します。

上記の他にも、NGO・NPO、金融機関、行政官庁、マスコミ、次世代等伊藤忠グループにとって重要なステークホルダーは数多く存在しています。

伊藤忠商事の企業理念

伊藤忠商事は、「国際総合企業としてこれからの社会にどうコミットするか」を考え実践するために、1992年に伊藤忠商事の企業理念「Committed to the global good. ~豊かさを担う責任~」を策定しました。当社のCSRに関する考え方はこの企業理念に基づいており、これを世界の伊藤忠商事社員が価値観として共有し、企業活動において実践しています。

伊藤忠商事の企業理念 ~豊かさを担う責任~



世界における企業理念の共有と 実現のために 一経営計画にCSRを組み込む

伊藤忠商事は、中期経営計画「Frontier+2008 ~世界企業を目指し、挑む~」において、「全てのステークホルダーにとって魅力溢れる世界企業」を目指すことを基本方針としています。そのためには、世界の伊藤忠グループ全体で企業理念「Committed to the global good.」を共有し、「伊藤忠グループのCSR」を実践することが不可欠です。

このようなことから、「Frontier+2008」においては、CSRの推進を重要施策として位置付け、経営計画策定にあたりCSRの観点で取組む事項をあわせて考えることとしました。この考え方は全社に浸透し、各部署において本業におけるCSR活動を実効性のあるものにしています。

2008年度のCSR推進基本方針

伊藤忠商事では、経営計画にCSRをより具体的に組み込むため、「Frontier+2008」策定の際に、この期間中に会社全体で取組むべき「CSR推進基本方針」を定めました。

真の世界企業を目指すためには、当社のCSR活動を海外拠点、グループ会社、サプライチェーンに広げていくことが重要であると考えています。

当社は、2007~2008年度にかけて、CSR推進の展開範囲を世界の全ブロック/店に拡大しました。また、グループ会社におけるCSR推進も随時拡大しています。更には、当グループの事業活動をサプライチェーンで捉えて、CSR推進をサプライヤーにも拡大していく活動を開始しました。

参照 P9~10、36、38

Frontier⁺ 2008 期間中の CSR推進基本方針

1.ステークホルダーとのコミュニケーション強化

- 2.商品・サービス・人の安全・安心面の徹底・向上
- 3.CSRに関する教育·啓発
- 4.CSR推進の展開範囲拡大

参照 P19~32の各カンパニー「2008年度の行動計画」で、本推進基本方針とリンクする計画については該当番号を記載しています

